

株式会社アトス・インターナショナル(ミュージック・エア)
番組審議委員会 議事録

1. 日時：平成30年6月14日(木) 17:00～17:35

2. 場所：株式会社アトス・インターナショナル本社 会議室

3. 出席者：

○番組審議委員(敬称略)

番組審議委員長 齊藤 純一(株式会社インプレスホールディングス 社長室 室長)

番組審議委員 五十嵐 弘之(株式会社ドリーミュージック 取締役 CFO)

番組審議委員 谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)

番組審議委員 佐藤 毅(ゼフロユナイテッド株式会社 代表取締役社長)

番組審議委員 田中 良典(株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス出版部 営業担当部長)

番組審議委員 松山 梢(映画ライター)

番組審議委員 望月 秀城(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 知的財産戦略グループ副本部長 兼 契約管理部 部長 兼 著作権管理部 部長)

番組審議委員 守屋 純子(ジャズピアニスト、作編曲家、昭和音楽大学非常勤講師、尚美学園大学非常勤講師)＜書面による参加＞

<欠席委員>

番組審議委員 駒形 四郎(音楽評論家)

番組審議委員 久保田 則好(Mustang Co.,Ltd. 代表)

○放送事業者

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長 福田 泉

編成局長 谷 俊之

○番組供給者

株式会社アトス・インターナショナル

堀口 昭典(代表執行役員社長)

城水 千明(代表取締役)

井上 靖(取締役兼執行役員)

木村 俊央(メディア企画部 メディア・グループ ミュージック・エア担当プロデューサー)

4. 放送事業者から説明

株式会社シーエス・ワンテン福田社長より放送法規定の番組審議機関に関して

- ・ 番組審議機関は7名以上の委員で構成（委員欠席の場合は事前意見聴取）
- ・ 番組審議委員長の選任
- ・ 番組審議内容の公表義務

審議議事録の放送事業者事務所での設置公開、HPでの議事録及び審議模様の掲載

5. 報告事項

① ミュージック・エアの編成方針・内容

60年代～80年代の洋楽を中心としたSA級の大物アーティスト、来日アーティスト、周年記念アーティストの特集番組を中心に放送。

ジャンルとしては、洋楽ロック・ポップスが7割、海外JAZZが1割、その他オリジナル番組等で2割。洋楽ロック・ポップスの年代は60～80年代で7割。視聴者層はスカパー!、スカパー!プレミアムサービス共に50代男女(2018年5月スカパー視聴動向調査より)。

6. 番組内容審議

<番組概要説明>

① 「MA HEADLINES #319」

- ・ 「MA HEADLINES」はミュージック・エアがお薦めするアーティストの最新情報をお届けする音楽番組。ここでしか見ることのできない貴重なインタビューやライブ映像をお送りしている。MCはお笑いコンビ「ダーリンハニー」の長嶋トモヒコさん。
- ・ ご覧いただいた#319(昨年8月12日初回放送)は、日本ジャズ界の巨匠ピアニスト山下洋輔氏が登場した回。1981年の落語を題材としたアルバム「寿限無」を2017年に菊地成孔氏など豪華メンバーで現在に蘇らせた「寿限無 2017」について。さらには彼の有名な独自奏法「肘弾き」の誕生秘話、1973年と2008年に燃えるピアノを演奏した伝説のパフォーマンス「ピアノ炎上」について等数々の伝説に迫るインタビューを行っている。
- ・ 「MA HEADLINES」は、ミュージック・エアが独自に制作しているオリジナル番組で、2011年4月より毎週放送。毎週1組のアーティストの単独インタビューや時にはライブやイベントの様態等を放送。2018年6月14日現在で計361回を放送。
- ・ 過去にはジミー・ペイジ(レッド・ツェッペリン)、ジョン・オーツ(ホール&オーツ)、スティーヴ・ルカサー(TOTO)、ナイル・ロジャース(CHIC)、スタイリスティックス、クリストファー・クロス、ボビー・コールドウェル、クール&ザ・ギャング、アール・クルー、マンハッタン・トランスファー、ジョン・マクラフリン、デヴィッド・サンボーン、スティーヴ・ガッド、ロン・カーター、日本人ではchar、石橋凌、小室哲哉、久保田利伸、そして放送後亡くなられたジョー・サンプル(2014年没)、ジョージ・デューク(2013年没)など、出演アーティストは300組を超えており、現在も放送中。

<委員からの意見>

- ◆延々インタビューだけで構成されているのはすごい。出演している山下洋輔さんに興味を持っている人は素直に入り込めると思うが、ちょっとマニアックすぎるかと。もうちょっと構成の仕方に工夫があった方がよかったのではないかな。
- ◆マニアックだが、出演者によって興味の対象もずいぶんずれるだろうし、クオリティ・コントロールというかどこまでマスの興味をそそるような演出をするのかに興味をもった。300回以上続いているのはすばらしい。
- ◆1人の方に30分じっくりインタビューするのはとても魅力的だし、見ごたえのあるインタビューになっている。ただ、(山下洋輔を)全く知らなかった人間からすると、ちょっとハードルが高い印象をもつので、年齢やキャリアのスタートの経緯、今までリリースされたアルバム等の情報が最初にあると、視聴者が wikipedia でこの方の情報を調べなくても見られるようにできたのではないかな。また、テレビは映像と音をどちらもダイレクトに情報提供できると思うので、例えば「寿限無」の話の時に「寿限無」の音源を流してもらえると、こういう音楽をされている人なのだとすることがすぐにわかる。作り方としてはとても面白いので、ちょっとハードルを下げただけだと、全く興味がなかった人間にもとても魅力的に映るのではないかな。
- ◆内容は興味深くわかりやすいが、ラジオだったら成立する番組という印象。映像があまりにも質素。例えばピアノの前でインタビューするとか、ちょっと弾いてもらうとかという工夫、または、番組中にテロップが挟まれるが、動画を使った方がいい。この人はピアノを弾く人なのだとすることが一目でわかるような作りにした方がより説得力が出たのではないかな。それと、気になったのは2人が話しているときに笑うシーンが2ヶ所くらいあるが、音が歪んでいたもので、配慮した方がいい。
- ◆(山下洋輔)を知らない人はどんな感じの曲かがわからないので、音楽を挟み込んだ方がどんな音楽をやっているかがわかる。前半に「東京 JAZZ」の話があったので、前後(オープニング、エンディングで紹介される)のアーティストを見ていると、ニルス・ラン・ドーキーやミシェル・ブランチ等あまり(東京 JAZZ に)関係ない方がいらっしまったので、できれば東京 JAZZ にゆかりのある方が並んでいた方がより興味深くなったと思う。映像の中で気になったのは、紺色のカーテン。後ろは白い幕を入れるだけでも明るさが違うと思う。
- ◆山下洋輔の大ファンだが、今までじっくり話しているのを聞いたことがなかった。自由にいろいろなことを話せる番組はすごく良質でいいと思う。BS プレミアムの「100年インタビュー」のようなアーカイブできるようなもの、もっとハードルを上げてしまい、知っている人だけの楽しみくらいがいい。宣伝とかはなくていいのではないかな。洋輔さんの音楽に対する思いとか、こんなことをやってきたとかシンプルなことをしゃべり上げるだけで成立するような番組になってほしいと思う。
- ◆山下洋輔世代なので、とても懐かしい思いで見た。山下さんが書いたものは読んでいたが、本人がこんなに話しているのを見るのは初めてですごく感激した。
- ◆ジャズと落語に共通点があるという話が面白かった。質問ごとに、質問の要点を要約したテロップが出るのが、とてもわかりやすくて良い。割合、難しくてオタクな内容ですから、理解の助けになる。

色々なお話が出てきたが、やはり、山下さんとピアノとの最初の出会いのお話が興味深かった。フリージャズという、やや一般的に判りにくい音楽の実態と魅力を伝えるのがさすがに山下さんは上手だと思った。フリージャズを格闘技に例えているのも面白く感じた。

話題を4~5個に分けて、最初にタイトルを出してから、その項目についてのインタビューを流すという手法は、話の流れがわかりやすく良かった。

一つ思ったのが、山下さんが過去に実際にフリー演奏をしているところ、コンチェルトをやっているところ、菊池成孔さんとの共演、ピアノ炎上演奏などの映像は多分残っていると思う。

写真でも良いので、そういう実際の映像や写真があるとさらに説得力が増したと思う。30分は結構長いので、ずっと2人の人が話しているだけというよりも、その話題に出ているものの写真やビデオが多少あった方が面白い。フリージャズがどんなものか、想像もできない人も見ているかと思うので。

インタビュアーの方も、山下さんも、身振り手振りが大きく、お話も上手なので、今回はともかく、これがもう少し大人しいタイプの人だったら、視聴者はちょっと飽きてしまうかもしれない。

<アトス・インターナショナルからのコメント>

マニャックという意見もいただきましたので、演出面含めて今後の番組制作の参考にさせていただきます。

<番組概要説明>

② 「サミー・ヘイガーRock & Roll Road Trip2 #8」

- ・当番組は元ヴァン・ヘイレンのヴォーカリストで、現在は超絶ギタリストのジョー・サトリアーニ、レッド・ホット・チリ・ペッパーズのドラマー、チャド・スミス、元ヴァン・ヘイレンのベーシスト、マイケル・アンソニーと組んだチキンフットというスーパーバンドのヴォーカリストとしても活動するサミー・ヘイガーがホストを務め、全米各地を巡る音楽旅番組。今回ご覧いただいたシーズン2#8(初回放送日：2018年1月24日)はラスベガスにて、元イーグルスのドン・フェルダーが出演し、彼が作曲したイーグルスの名曲「ホテル・カリフォルニア」についての制作秘話や脱退したイーグルスについての思いを語ったり、最後はサミー・ヘイガーとドン・フェルダーがホテル・カリフォルニアをセッションするなど大変興味深い内容となっている。その他アメリカン・プログレ・ハードを代表するバンド「スティクス」がインタビュー出演。
- ・「サミー・ヘイガーRock & Roll Road Trip」はアメリカのテレビ局 AXS TV が制作した毎回30分のレギュラー番組。アメリカではシーズン1(全6回)は2016年1月スタート、シーズン2(全13回)は2017年5月スタート、シーズン3は2018年中にスタート予定。日本初放送となるミュージック・エアではシーズン1を昨年7月、そしてシーズン2を昨年10月から放送。シーズン2はミュージック・エアで新規の放送は終了したが、シーズン3も放送予定。番組の魅力としては、サミー・ヘイガーの人脈による大物アーティストのゲスト出演と、大物ミュージシャン同士だから引き出せるトーク、そして彼らのセッションなどここだけでしか観られない貴重な番組。主なゲストは、アリス・クーパー、フリートウッド・マックのミック・フリートウッド、チープ・トリックのギタリスト、リック・ニールセン、メタリカのフロントマン、ジェイムズ・ヘットフィールド、元ボン・ジョヴィのギタリスト、リッチー・サンボラ、レッド・ホット・チリ・ペッパーズのドラマー、チャド・スミス、新三大ギタリストの一人ジョン・メイヤー、マルーン5のフロントマン、アダム・レヴィーン等錚々たるメンバーが出演している番組。

<委員からの意見>

- ◆音楽バラエティーとして成立してとても楽しく拝見した。サミー・ヘイガーがこんなにしゃべれるとは知らなかった。(サミー・ヘイガーの)表現回しもすごくいい形で、ギタリスト同士の関係性も楽しかった。
- ◆ミュージシャンがテレビのキャラクター化するのは日本では普通だが、アメリカでも同じなのだと感慨深かった。番組を制作した AXS TV は(ミュージシャンと)太いパイプを持っているのだろう。このシリーズだけでなく、これからも期待できるのではないか。
- ◆インタビュアーがプロのインタビュアーではなくプロのミュージシャンであるところがこの番組の最大の魅力であり、本音を引き出したり、聞きづらいことを同じ立場で聞けたりするのはもちろん、逆にくだらない話で盛り上がりたり、おおらかだったり、緩さ、ロック・ミュージシャン同士の交流がチャタリングで面白いと思った。ライブだけでなく。こういうインタビュー番組も是非見たい。
- ◆イーグルスが好きなので、最後にまさかドン・フェルダーがホテル・カリフォルニアをやるとは思わず、とても楽しめた番組だった。
サミー・ヘイガーのテンポ感がイーグルス時代の話しも軽く受け止められ、すごくいい形で聞いた。ライセンス番組なので内容についてはどうにもならないが、3つのパートがあったが、ドン・フェルダーのパートはもっと深くやってほしかった。
- ◆ミュージック・エアのターゲットにはストライクの番組。ホテル・カリフォルニアの制作秘話やスティックスの解散秘話等マニアの方が喜びそうな内容でとても楽しめた。
残念だったのは、最初に「スタンドアップ・コメディアン」という誰だかわからない人が流れていた。もし編集が可能であれば、最初ではなく、間に挟み込んだ方が見やすくなったと思う。
せつかくこれだけポイントになる、例えばホテル・カリフォルニアのセッションという話があるのなら、ヘッドラインで、「こういう見どころがありますよ」と最初に入れておいた方が離れるお客様が少ないのではないか。
- ◆レコード会社の立場で言うと、洋楽アーティストの素顔や交友関係を紹介する機会、メディアは皆無なので、アーティストが来日した時にもこういう番組が増えていてもらいたい。
アーティストの交友関係、人間関係が洋楽の場合は面白く、どんなバンドができて、それが1回別れて再結成して、誰と誰がくっついて等洋楽の歴史を勉強するような俯瞰して体系的に紹介するような番組ができると、洋楽への入口にもなり、洋楽ファンを増やすことにもつながるので、もう少し踏み込んでもらえるともっと面白くなると思う。
- ◆ホテル・カリフォルニアのセッションは本物が見られて感動した。
- ◆キャロット・トップのパートは、日本のコメディアンとラスベガスのコメディアンでは随分雰囲気違うものだというのを、興味深く感じた。スラングの嵐なので、字幕があることがとても助かる。
ドン・フェルダーはイーグルスの裏話が聞いたのが良かった。
スティックスについては、若い頃に喧嘩別れしても、年齢を経て、また共演できる関係になってきた、という逸話が興味深かった。
3つのインタビューもとても興味深いものだったが、なんといっても、素晴らしいのが、「ホテル・カリフォルニア」の演奏。誰もが知る大名曲を、今のドン・フェルダーが、番組ホストと共に演奏する、というのが素晴らしい。
全体にとにかく、お金もかかっている、丁寧に作られており、豪華な番組という感じ。ラスベガスの風景も素敵だし、インタビュアーも、インタビューされる側も超豪華。最後に、オリジナル演奏まで聴けて、やはりアメリカの音楽番組はいいと感じた。こういう番組を日本で紹介してもらえるのは嬉しい。

7. 質疑・応答

Q1. 番組のライセンス元はアメリカとヨーロッパとどちらが多い？

A1. ヨーロッパ、とくにイギリスが多い。

Q2. 番組のライセンス・フィーはアメリカの方が高い？

A2. 高いというより、日本に合う音楽番組はイギリスと欧州の方が多。



以上